

岡山市内主要神社仏閣 MAP (岡電路線図)



岡山神社



戦国時代の備前で、戦乱の表舞台となったのは、播磨(兵庫県西部)から進出した勢力等が活躍した備前東部でした。やがて秀家の父・宇喜多直家が台頭。西進して岡山城の城域にあった石山の城に本拠を移し、岡山が戦国史の表舞台に登場したのです。岡山神社が今の場所に移転したのはそのときで、以来、岡山城を築城した宇喜多秀家、小早川秀秋、池田家と歴代城主に整備・崇敬され、城下町岡山を見守っています。

玉井宮東照宮



岡山城で生まれ、姫路、鳥取の城主になった池田光政は、千姫(豊臣秀頼の正室、後に本多氏に嫁ぐ)の娘で姫路城生まれの勝姫を正室としていました。姫路城ゆかりの光政夫妻は、その後岡山城主夫妻となり、光政は全国で先がけて徳川家康を祀った日光東照宮から岡山に勧請しました。その場所は玉井宮の地で、玉井宮は南に移転遷座し、その景観から岡山城、城下町、政の守護として祀られました。明治以降は、合祀され玉井宮東照宮と呼ばれています。倭約を奨励し、派手な祭を禁じた光政ですが、城下町を練り歩く東照宮御神幸は武家・町衆が一体で毎年挙行されました。

日限地藏尊 法澤山 大雲寺

西山浄土宗の寺院で、元々は西大寺町にあり、竜昌山大運寺と号していました。安土桃山時代の慶長5年、関ヶ原の戦い(1600年)の後、小早川秀秋が岡山城に入り、現在の表町に移されました。



『ひぎりのおじぞうさん』として広く知られ、毎月23日には縁日が開催されています。お寺には数えきれないほどの大小様々なお地藏様がお祀りされており、中でも地藏堂に安置されている日限延命地藏様には触れることができ、自分の痛いところや良くなって欲しいところと同箇所を撫でられている光景が今も尚見受けられます。

